

R6年度 交流及び共同学習 本校の取組について

I 学校間交流

(1) 小学部

交流校	内容	回数
清水飯田東小学校	・お互いの学習の様子を発表(音楽発表や修学旅行の発表など) ・レクリエーション、ゲーム	直接交流 各学年1回
清水南高等学校	・互いの美術作品を交換し、校内展示	間接交流1回

目標	・児童が、交流校の友達と遊んだり関わったりする活動を通して、生活を楽しんだり広げたりすることができる。 ・交流校の友達や職員に、清水特別支援学校の教育や障害に対する理解を深め、啓発の機会とする。また、交流を積み重ねることにより、小学校の児童が特別支援教育啓発の推進役となるよう基礎作りに努める。
活動の様子	
評価	・誘い誘われながら一緒に活動することで、お互いのことを知る機会となった。交流校の児童は、本校の児童のペースに合わせて動いたり、障害について教員に質問したり、理解を深めようとする様子があった。 ・お互いの学習内容を発表し合うことで、理解が深まった。音楽発表では同じ教科で交流することができた。 ・交流終了後にはお礼の手紙を交換し、交流が広がった。 ・担任間の目的の共有やより一層の理解啓発が図れるよう、取り組んでいきたい。

(2) 中学部

交流校	内容	回数
清水第五中学校 (特別支援学級)	三保の松原の清掃作業 ・ペアになって松葉かき、袋入れ ・活動後に、感想カードの交換、掲示	(中 1) 直接交流 1 回、間接交流
清水袖師中学校 (特別支援学級)	2学期末の特別活動での交流 ・生徒企画、運営のお楽しみ会に招いた ・音楽(歌唱、器楽)発表、ボッチャ対決	(中 1) 直接交流 1 回
清水第八中学校 (特別支援学級)	学習の様子 of 掲示物の送付 (作業学習、生単「清水の自慢ワールド」、体育 の活動紹介)	(中 2) 間接交流 1 回
清水飯田中学校 (特別支援学級)	本校体育館にてレクリエーション ・小グループで自己紹介 ・グループ対抗でのゲーム	(中 3) 直接交流 1 回
清水南高等学校	・互いの美術作品を交換し、校内展示	間接交流 1 回

目標	・生徒が交流校の友達と関わりをもち、同年代の生徒と一緒に活動することを楽しむ。 ・生徒が交流校の友達から刺激を受け、生活を広げ気持ちを豊かにする。		
活動の様子	   		
評価	・双方の学習を生かした交流を行うことで、相手校生徒が本校生徒に松葉かきのやり方を丁寧に教えてくれて多くの関わりをもったり、対等にボッチャを楽しんだりすることができた。 ・清水第八中や清水南高等部とは、本校の学習展示のみとなってしまったが、相手校生徒が興味を示して見ていたと様子を共有することができた。 ・共に育つ交流の充実のために、年度の早い時期に、双方の学校で意義や計画を共有する機会を設けることで、計画的に進めたい。		

(3) 高等部

交流校	内容	回数
清水東高等学校	・文化祭のチラシ、ポスター、うちわの受け取り ・文化祭への一般参加	直接交流1回
清水南高等学校	・合同で行う授業「音楽」交流 ・互いの美術作品を交換し、校内展示 ・搬出時に期間中に取ったアンケートを相手校に渡す。	直接交流1回 間接交流1回

目標	・近隣の高校生と話し合ったり一緒に活動に参加したりすることを通して、互いに理解し合う。 ・活動を通して、親しみ、交流を楽しみ、関係を深める。 ・学習成果を見せ合う場所を設け、互いの頑張りを認め合うことができる。
活動の様子	   
評価	・お互いの活動や思いを知る機会になり、生徒一人ひとりが自信をもって表現する機会が増えている。 ・早期に打ち合わせを行い、計画的に進め、継続的な交流にしていきたい。

2 地域交流

(1) 小学部

交流相手	内容	回数
おはなし海の会、おはなしジャングル さくらんぼの会、おれんじの会	・絵本の読み聞かせ	9
飯田地区社会福祉協議会	・室内ゲームで遊ぶ活動 ・クリスマスコンサート ・ゲストティーチャー（踊り、マジックショー）	15
セントケア八坂東、ニチイ、コスモス	5年生 生活単元学習 ・ゲームを手作りして届け、一緒に遊ぶ ・プレゼントを作り、届ける	8
ラジオ体操連盟	・ラジオ体操での体の動かし方を学ぶ（小5対象）	1
特定非営利活動法人 静岡 FID サッカー連盟	・サッカー、体づくり （低/中/高学年の集団で実施） ・エスパルスチアの踊りを教えてもらい、一緒に踊る	5

目標	・地域の方々や地域のボランティアとの活動を通じて、児童が様々な人と関わる機会をもつ。 ・地域の方が児童生徒と実際に関わることで、障害をもつ児童への理解を深める。 ・5、6年生のなかよし委員は、おはなしの会のための広報活動や当日の司会進行ができる。		
活動の様子	   		
評価	・なかよし委員は、読み聞かせの会の運営を通して、外部の方々や他学年と交流することができた。また、会を重ねるごとに、自信をもって司会進行や実施学年への声掛けに取り組むことができた。 ・ボランティアの方々と、自然な挨拶ややり取りをする機会となり、楽しく過ごせたり、教えてもらいながら一緒に活動したりすることができた。 ・関わってくださった地域の方々は、「子どもたちの知らなかった一面を知ることができた。」とのアンケートの回答があった。また、児童が事前に制作した造花を贈り、喜んでいただいた。		

(2) 中学部

交流相手	内容	回数
飯田地区社会福祉協議会	・花壇の花の植え付け ・ボッチャ交流、音楽発表 ・ゲストティーチャー（港かっぱれ、まるちゃん音頭）	6
おはなしきしゃぼっぽ、ジャングル、オレンジの会	・絵本の読み聞かせ	5
ラジオ体操連盟	・ラジオ体操での正しい体の動かし方を学ぶ（中1、3対象）	2
・静岡市三保松原文化創造センター「みほしるべ」 ・エスパルス	中1 総合的な学習の時間 ・みほしるべ、エスパルスの職員の方から、三保松原の保全活動について学ぶ ・保全ボランティア活動（三保松原の松葉かき）	2
特定非営利活動法人 静岡 FID サッカー連盟	・エスパルスチアの踊りを教えてもらい、一緒に踊る	2

目標	・生徒たちが、地域の方と一緒に活動したり、地域の方たちがもつ専門性に触れたりすることで生活を広げることができる。 ・地域の方たちが、生徒たちと活動することで、生徒たちのことを知ったり、視野を広げたりすることができる。		
活動の様子			
評価	・地域ボランティアとの交流（花植え、ボッチャ、音楽発表）では、生徒の学習してきたことを基に内容を設定することで、生徒が自信をもって活動したり、ボランティアさんに生徒の活発な姿を見てもらい褒めてもらったりと、とても盛り上がり交流することができた。 ・ゲストティーチャー（港かっぱれなど）を招いた活動では、手書きの歌詞カードの用意など地域の方が授業に参画してくださり、交流を深めることができた。 ・年度当初にラジオ体操講習を行うことで、その後の体育でもラジオ体操を正確に行えるようになった。		

(3) 高等部

交流相手	内容	回数
静岡市三保松原文化創造センター「みほしるべ」	・保全ボランティア活動(三保松原の松葉かき)	3
清水サッカー協会	・異年齢の方からのサッカー指導と交流ゲーム	1
飯田地区社会福祉協議会	飯田まつり(社協主催の地域のまつり)への参加 ・作業製品の販売 ・遊びコーナー(ボッチャ、輪投げ)来場者の対応	1
ラジオ体操連盟	・ラジオ体操の正しい体の動かし方を学ぶ	1
清水区未来創造トーク (清水で活躍する方、清水区内の高校生)	清水の未来について考える ・本校の実践(三保松原保全ボランティア活動)を発表	1

目標	・地域のことを知り、地域の方との協働的な活動を通して、交流を深める。 ・地域で人の役に立つ、感謝されることを通して、働く気持ちを高める。
活動の様子	   
評価	・蛇塚の芝生グラウンドで、清水サッカー協会の方から指導を直接受けたり、一緒に試合をしたりして交流することができた。今年度までは高1が行っているが、今後は、サッカー部が他校と合同で部活を行うなどの実施方法を検討しているところである。 ・清水にある学校として、価値ある学習活動に取り組んでいる。清水区未来創造トークでは、「清水や清水の良さを知る、地域で活動する」学習を通して三保松原保全活動について取り組んでいることを報告した。また、県 SDGsアワード 2024 に応募するなど、発信にも力を入れている。(優秀賞、企業賞受賞)

3 交流籍を活用した交流及び共同学習

※交流籍とは…本校の小・中学部に在籍する全ての子どもは、居住する地域の小・中学校に「副次的な籍」（静岡県では「交流籍」と命名。）を置くことができます。「交流籍」で交流や共同学習を積み重ねていくことで、「居住する地域の一員である」という共通認識を高めることができます。

目的 障害の有無に関わらず共に支え合い育つ 共生社会の実現とその担い手の育成を図る

<特別支援学校の児童生徒にとって>

- ・居住する地域との関係を深め、地域の一員として安全な環境で自立できる力を付け、充実した生活を送ることができるようにする。

<小・中学校の児童生徒にとって>

- ・障害者に対する偏見や差別のない「心のユニバーサルデザイン」を実現するため、お互いを認め思いやる心を持つことができるようにする。

(1) 小学部



実施人数	支援学級での実施	実施校
49	24	19

活動の様子	
保護者より	・地域の同年代の友達と過ごすことができて貴重な経験となった。 ・同じ幼稚園に通っていた友達がいて嬉しそうだった。本人も「またきたい。」と言っていた。 ・毎年行っていることで知っている友達が増え、お互い楽しく活動できていると感じる。 ・相手校のお子さんが、「もっと遊びたかった。」と言ってくれたり、本人のことにについて質問してくれたりした。同じ地域に住んでいるということを知ってもらい、嬉しかった。 ・活動中に本人が不安定になってしまったとき、相手校のお子さんが変わらず声を掛けてくれた。子どもたちの世界は障害の区別がなくインクルーシブなのだと感動した。
交流籍校より	・同じ学年として、同じ目線でお互いに思いやりながら、楽しんで活動することができた。昨年度に引き続き交流したことで、より深くかかわることができた。 ・同じ地域に住んでいるということは、どこかで再び出会う可能性が高く、このように交流する機会があることは子どもたちにとって良いものだと感じる。心の成長の面でもとてもありがたい取り組みだと感じる。 ・学級の児童は、どんなことをしたら初めて会う友達に楽しんでもらえるかを思い浮かべながら計画し、当日を心待ちにしていた。交流時も楽しく取り組むことができ、仲間が増えて嬉しそうだった。 ・初めはどう関わったら良いのか分からず、距離をとろうとする子が多かったが、1時間一緒に過ごすだけで少しずつ自分たちなりに関わろうとする姿が見られた。このような活動の積み重ね、経験は大切だと思う。

(2) 中学部

実施人数	支援学級での実施	実施校
19	19	12

活動の様子	   
保護者より	・いつもとは違う雰囲気の中、学ぶことは多かったと思う。 ・皆と同じ活動ができて嬉しそうだった。 ・活動を楽しめ、勇気を出して一歩踏み出したことで自信につながった。 ・いつもより長い距離のマラソンを完走して自信が付いたようだ。小学校の時の友達が頑張っている姿にも刺激を受けて、帰宅後漢字の勉強をしていた。 ・近所にたくさん友達がいるのだと改めて分かったようである。 ・身体や手を動かす活動、作業学習などが参加しやすい。 ・来年度も、今回同様、交流先の生徒と同じ活動に参加したい。 ・初めて関わる集団だったため、非常に緊張していて慣れるまでに時間が必要だった。 ・ゲストとして扱ってもらうのではなく、共同学習になると良いと感じる。
交流籍校より	・同じ学区の生徒との交流を通して、協力し合ったりともに活動に取り組んだりするなど、認めて支え合えるようなとても良い機会になった。 ・同じ環境の中で、ともに活動することができ、マラソンやエコクラフトの活動において応援したり協力したりする姿が見られた。 ・同じ地域に住む生徒と交流する中で、目的にある”認め、思いやる心”の成長に繋がっていると思う。 ・一度では表面的な関わりで終わるのが残念なので、継続して関われると良い。

(3) 今後に向けて

- ・交流籍校との事前の打ち合わせを早い時期から進め、生徒の実態の共有や活動内容の相談を十分に行う。
- ・事後に、本人、保護者や交流籍校と評価を共有する。
- ・直接交流の他に、自己紹介やお礼の手紙などでの間接交流の充実を図る。また、交流をきっかけに地域の中で行事に参加できるよう家庭に働き掛けていく。